

開催日時：2002年8月29日(木) 14:00~17:20  
 場 所：ぱ・る・るプラザ京都 4階会議室5  
 参加者数：委員8名 河川管理者19名 委員傍聴者2名

1 検討内容および決定事項

検討の前提、フレーム等について

- ・ダムWGでは主としてダムの一般的な事項について議論を行い、個別のダムについては、ケーススタディ的に取り上げる。現在淀川水系で計画中の4つのダム(川上ダム、大戸川ダム、丹生ダム、余野川ダム)や天ヶ瀬ダムの再開発事業など、個別のダム事業についてどこまで踏み込むかは、議論を進めながら考える。

フリーディスカッション

各委員および河川管理者が、これまでの流域委員会での議論を踏まえて、ダムの問題に関する意見や、このWGに期待することなどを個人の意見として話した。

<委員の主な意見>

- ・ダムについては、環境の問題だけではなく、住民不在の開発等の問題もこれからの検討が必要。
- ・4つのダムを前提としてそれぞれにどのような問題があるか議論すべき。
- ・従来型のダムの、アオコや淡水赤潮、魚の冷水病、流砂の遮断等の問題に対応できるような新しい技術を考えるべき。
- ・ダムがなければ、今の便利な生活が成り立たないのも事実。
- ・森林の水源涵養機能の限界、雨量予測の不確実性、地球温暖化と変動性、日本の将来の産業構造の行方も含めて、水需給を考えるべき。さらに土砂のコントロール技術の検討も必要。
- ・ダムを個別に検討するだけでなく、流域全体で考えるべき。

<河川管理者の主な意見>

- ・委員会や部会の席ではダムについて十分に説明できる機会がなかった。WGでは、ダムの効果や代替案の可能性等について、正確な資料をもとにじっくり説明を行いたい。
- ・ダムの効果・役割について、委員や流域住民に理解してもらうことが最重要だと考えている。
- ・壊滅的被害の回避という、治水の理念転換の中でダムをどう位置づけするのか。

今後の予定について

- ・第2回ダムWGは、9月19日(木)16:00~19:00に行う。淀川水系の既存のダムおよび計画中のダムについて河川管理者より説明を聞く。河川管理者には以下の資料を準備して頂く。
  - a. 既存および計画中のダムに関する資料(事業目的、ダムの概要、問題点等を明記)
  - b. 丹生ダムについてのより詳しい資料(ケーススタディとして取り上げるため)
  - c. 農水系ダムや府県が管理するダムも含めて流域の全てのダムを一枚の地図に示したもの。
- ・庶務は、これまでに河川管理者より提出されたダムに関する資料を整理し、事前に委員に送る。
- ・第3回ダムWGは10月6日(日)14:00~21:00に行う。
- ・10月中旬~下旬までに第4回WGを開催する。

以上

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。詳しい内容については結果概要をご覧ください。